

簡単！スムーズ！

置換え BOOK

GP-3600T

→ **SP-5600TA**(アドバンスディスプレイ)

+ **SP-5B10** (パワーボックス)

SP-5B00(スタンダードボックス)

はじめに

本資料では GP-3600T を SP-5600TA + SP-5B10/SP-5B00 へ置き換える手順や注意点をご紹介します。
おすすめの代替機種は以下の通りです。

ご使用の機種	型式	代替機種
GP-3600T	AGP3600-T1-AF	SP-5600TA (アドバンストディスプレイ) + SP-5B00 (スタンダードボックス) -> 1.1 参照
	AGP3600-T1-D24	
GP-3600T (DIO タイプ)	AGP3600-T1-AF-D81C	SP-5600TA (アドバンストディスプレイ) + SP-5B10 (パワーボックス) + FLEXNETWORK ユニット (型式: PFXZCHEUFN1) -> 1.2 参照
	AGP3600-T1-D24-D81C	
	AGP3600-T1-AF-D81K	
	AGP3600-T1-D24-D81K	
GP-3600T (FLEX NETWORK タイプ)	AGP3600-T1-AF-FN1M	
	AGP3600-T1-D24-FN1M	
GP-3600T (CAN Open タイプ)	AGP3600-T1-AF-CA1M	SP-5600TA (アドバンストディスプレイ) + SP-5B10 (パワーボックス) + CANopen マスターユニット(型式: PFXZCHEUCAM1) -> 1.2 参照
	AGP3600-T1-D24-CA1M	

SP5000 シリーズはディスプレイとボックスが分かれており、用途に合わせて自由に組み合わせることができます。本資料で 12 型ディスプレイの SP-5600TA(アドバンストディスプレイ)にボックスモジュール SP-5B10 (パワーボックス) /SP-5B00 (スタンダードボックス)を組み合わせた場合の仕様をご説明します。



安全に関する使用上の注意

本誌に掲載している製品を正しくご使用いただくために、以下の用法をお守りください。

- ご使用前に必ずマニュアルおよびその他付属する書類をよくお読みください。
- 据付け・接続・保守は、必ず電気設備の施工法、関連法規などを熟知し、かつ適切な技能を有する方が行うようにしてください。

これらを守らずに使用した場合、人命に関わる重傷や機器の損傷、その他いかなる結果が生じても弊社は一切の責任を負わないものとします。

目次

第 1 章 仕様比較	6
1.1 GP-3600T(スタンダードクラス)と SP-5600TA+SP-5B00 の仕様比較	6
1.2 GP-3600T(コントロールクラス)と SP-5600TA+SP-5B10 の仕様比較	8
第 2 章 ハードウェアの互換性について	11
2.1. コネクタ位置の違い	11
2.2 電源について	12
2.3 USB 転送ケーブルについて	13
2.4 インターフェイスについて	13
2.4.1 シリアルインターフェイスについて	13
2.4.2 補助入出力 (AUX) インターフェイスについて	13
2.4.3 音声出力インターフェイスについて	13
2.4.4 DIO インターフェイス、FLEXNETWORK インターフェイス、CANOPEN インターフェイスをご使用の場合	14
2.4.5 CFカードインターフェイスについて	15
2.5 周辺機器、オプション品について	15
2.5.1 バーコード/2次元コードリーダの接続について	15
2.5.2 プリンタの接続について	15
2.5.3 拡張ユニットについて	16
2.5.4 アイソレーションユニットについて	17
2.6 時計のバックアップについて	17
2.7 対応機能について	18
2.8 消費電力について	18
2.9 表示解像度について	18
2.10 PRO-SERVER EX について	18
2.11 その他の注意点	19
第 3 章 置き換え手順	20

3.1	作業の流れ	20
3.2	用意するもの	21
3.3	GP3000 シリーズから画面データを受信する	21
3.4	表示器タイプを変更する	27
3.5	SP5000 シリーズへ転送する	27
3.6	ソフトウェアの相違点	31

第 4 章 接続機器との通信 32

4.1	COM ポートの形状と通信方式	32
4.2	COM2 ポートの信号の違い	32
4.3	置き換え時のケーブル結線について	33
4.4	マルチリンク接続について	33

第 5 章 付録 34

5.1	使用する外部メディアの設定変更について	34
-----	---------------------	----

第1章 仕様比較

1.1 GP-3600T(スタンダードクラス)と SP-5600TA+SP-5B00 の仕様比較

		GP-3600T	SP-5600TA+SP-5B00
			
表示液晶の種類		TFT カラーLCD	
表示色数		65,536 色 (ブリンクなし) / 16,384 色 (ブリンクあり)	262,144 色 (ブリンクなし) *1
表示解像度		SVGA (800×600 ドット)	XGA (1,024×768 ドット) → 2.9 参照
パネルカット寸法		W301.5×H227.5mm	
外形寸法		W313×H239×D56mm	NEW ! W315×H241×D67mm *2
タッチパネル方式		アナログ抵抗膜方式	UP! アナログ抵抗膜方式 (シングルタッチ)
メモリ 容量	画面容量	16M バイト	UP! 64M バイト
	バックアップ メモリー	SRAM : 320K バイト	UP! NVRAM : 320K バイト
バックアップ電池		充電式リチウム電池	UP! なし → 2.6 参照
定格電圧		DC24V AC100~240V	NEW ! DC12~24V → 2.2 参照
シリアル I/F	COM1	D-Sub9 ピン (プラグ) RS-232C/422/485	D-Sub9 ピン (プラグ) RS-232C → 4.1 参照
	COM2	D-Sub9 ピン (ソケット) RS-422/485	NEW ! D-Sub9 ピン (プラグ) RS-422/485 → 2.4.1 と 第 4 章参照
イーサネット I/F		1 ポート 10BASE-T/100BASE-TX	UP! 2 ポート

		10BASE-T/100BASE-TX
CFカード I/F	有	NEW ! - → 2.4.5 参照
SDカード I/F	-	NEW ! 有 → 2.4.5 参照
USB I/F	Type A	2ポート
	Type mini B	NEW ! 1ポート
プリンタ I/F	USB Type A → 2.5.2 参照	
補助入出力 I/F	有	無 *3
音声出力 I/F	スピーカー出力: 70mW(定格負荷 8Ω、周波数:1kHz)、 コネクタ: ツーピース型端子台 (AUX) x 1	無 *3
FLEXNETWORK I/F	有 (AGP3600-T1-AF-FN1M/ AGP3600-T1-D24-FN1Mのみ)	無 *3
CANopen I/F	有 (AGP3600-T1-AF-CA1M/ AGP3600-T1-D24-CA1Mのみ)	無 *3
DIO I/F	有 (AGP3600-T1-AF-D81*/ AGP3600-T1-D24-D81*のみ)	無 *3
拡張ユニット I/F (通信ユニット)	有	無 *3
拡張ユニット I/F (画像ユニット)	有	無 → 2.7 参照
機能拡張メモリー	有	無 *4
ソフトウェア	GP-Pro EX 2.00 以上	GP-Pro EX 4.08.200 以上

*1: SP-5B00 はハードウェア 3 速ブリンクに対応していません。

*2: SP-5600TA (アドバンストディスプレイ) と SP-5B00 (スタンダードボックス)を組み合わせた時のサイズです。

*3: こちらが必要な場合は SP-5B10(パワーボックス)を選定してください。

*4: 拡張メモリーはありませんが、SP5000 シリーズには GP3000 シリーズ+拡張メモリーをカバーするのに十分なメモリーを持っています。

1.2 GP-3600T(コントロールクラス)と SP-5600TA+SP-5B10 の仕様比較

		GP-3600T	SP-5600TA+SP-5B10
			
表示液晶の種類		TFT カラーLCD	
表示色数		65,536 色 (ブリンクなし) / 16,384 色 (ブリンクあり)	262,144 色 (ブリンクなし) / 65,536 色 (ブリンクあり)
表示解像度		SVGA (800×600 ドット)	XGA (1,024×768 ドット) → 2.9 参照
パネルカット寸法		W301.5×H227.5mm	
外形寸法		W313×H239×D56mm	NEW ! W315×H241×D67mm *1
タッチパネル方式		アナログ抵抗膜方式	アナログ抵抗膜方式 (シングルタッチ)
メモリ 容量	画面容量	16M バイト	UP! 64M バイト
	バックアップメモリー	SRAM : 320K バイト	UP ! NVRAM : 320K バイト
バックアップ電池		充電式リチウム電池	UP! なし → 2.6 参照
定格電圧		DC24V AC100~240V	NEW ! DC12~24V → 2.2 参照
シリアル I/F	COM1	D-Sub9 ピン (プラグ) RS-232C/422/485	
	COM2	D-Sub9 ピン (ソケット) RS-422/485	NEW ! D-Sub9 ピン (プラグ) RS-232C/422/485 → 2.4.1 と 第 4 章参照
イーサネット I/F		1 ポート 10BASE-T/100BASE-TX	UP ! 2 ポート 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T
CF カード I/F		有	NEW ! - → 2.4.5 参照
SD カード I/F		-	NEW ! 有

			→ 2.4.5 参照
USB I/F	Type A	2ポート	2ポート
	Type mini B		NEW! 1ポート
プリンタ I/F		USB Type A → 2.5.2 参照	
補助入出力 I/F	有		有 → 2.4.2 参照
音声出力 I/F	スピーカー出力: 70mW(定格負荷 8Ω、周波数:1kHz)、 コネクター: ツーピース型端子台 (AUX) x 1		UP! スピーカー出力: 300mW 以上 (定格負荷: 8Ω、周波数: 1kHz) ライン出力: 1.4Vp-p (定格負荷: 10kΩ) コネクター: ツーピース型端子台(AUX) x 1 -> 2.4.3 参照
FLEXNETWORK I/F	有 (AGP3600-T1-AF-FN1M/ AGP3600-T1-D24-FN1Mのみ)		FLEXNETWORK ユニット (型式: PFXZCHEUFN1)が必要です 詳細は FAQ:FA330215 を参照してください
CANopen I/F	有 (AGP3600-T1-AF-CA1M/ AGP3600-T1-D24-CA1Mのみ)		CANopen マスターユニット (型式: PFXZCHEUCAM1)が必要です 詳細は FAQ:FA326702 を参照してください
DIO I/F	有 (AGP3600-T1-AF-D81*/ AGP3600-T1-D24-D81*のみ)		FLEXNETWORK への 変更が必要です
拡張ユニット I/F (通信ユニット)	有		有 → 2.5.3 参照
拡張ユニット I/F (画像ユニット)	有		- → 2.7 参照
機能拡張メモリー	有		- *2
ソフトウェア	GP-Pro EX 2.00 以上		GP-Pro EX Ver. 4.08.200 以上

*1: SP-5500TA (アドバンスディスプレイ) と SP-5B10 (パワーボックス)を組み合わせた時のサイズです。

さらに、拡張ユニットを追加でご使用される場合は、サイズやケーブル取り付け位置が異なりますので、以下を参照してください。

PROFIBUS DP スレーブ/MPI ユニット (型式:PFXZCDEUPF1)をご使用の場合

https://www.proface.com/ja/support/faq?page=content&country=PROFACE&lang=ja&locale=ja_JP&id=FA315627&prd=&redirect=true

FLEXNETWORK ユニット (型式: PFXZCHEUFN1)をご使用の場合

https://www.proface.com/ja/support/faq?page=content&country=PROFACE&lang=ja&locale=ja_JP&id=FA330215&prd=&redirect=true

CANopen マスターユニット(型式: PFXZCHEUCAM1)をご使用の場合

https://www.proface.com/ja/support/faq?page=content&country=PROFACE&lang=ja&locale=ja_JP&id=FA326702&prid=&redirect=true

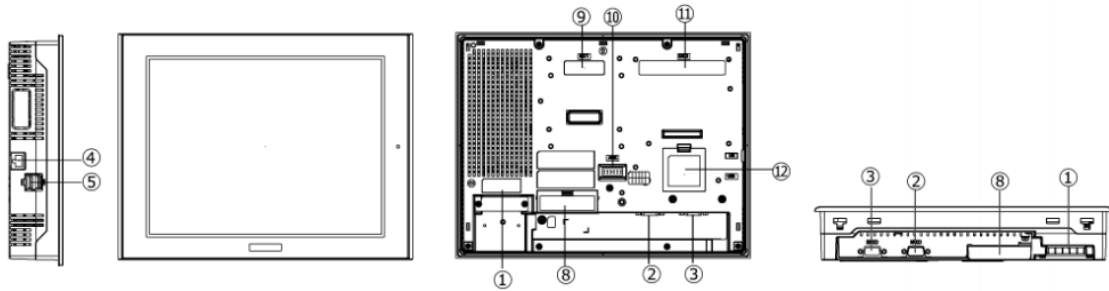
***2:** 拡張メモリーはありませんが、SP5000 シリーズには GP3000 シリーズ+拡張メモリーをカバーするのに十分なメモリーを持っています。

第2章 ハードウェアの互換性について

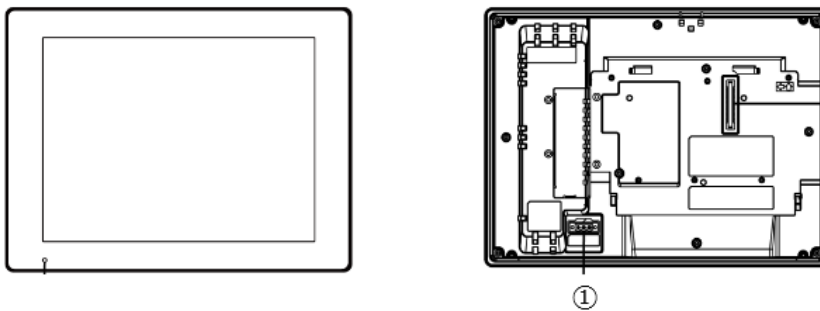
2.1. コネクター位置の違い

◆GP-3600T と SP-5600TP+SP-5B10 のコネクター位置

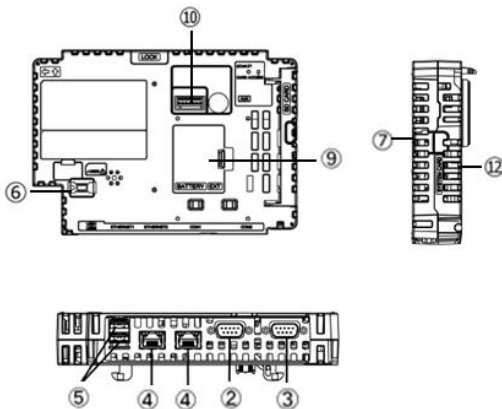
GP-3600T



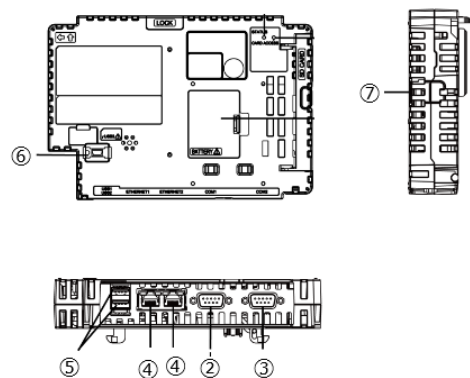
SP-5600TA(アドバンスディスプレイ)



SP-5B10 (パワーボックス)



SP-5B00(スタンダードボックス)



	GP-3600T	SP5000 シリーズ SP5B10(パワーボックス)	SP5000 シリーズ SP5B00(スタンダードボックス)
①	電源入力端子台 (AC) / 電源コネクタ (DC)	電源コネクタ (DC)	電源コネクタ (DC)
②	シリアル I/F (COM1)		
③	シリアル I/F (COM2)		
④	イーサネット I/F		
⑤	USB I/F (Type A)		
⑥	-	USB I/F (Type mini B)	
⑦	-	ストレージカードカバー (カバー内にストレージ用の SD カード I/F があります)	
⑧	CF カード I/F	-	-
⑨	拡張ユニット I/F (通信ユニット)		-
⑩	補助入出力/音声出力 I/F (AUX)		-
⑪	拡張ユニット I/F (画像ユ ニット)	-	-
⑫	機能拡張メモリーカバー	-	-



2.2 電源について

SP5000 シリーズは DC 電源タイプのみです。そのため、GP-3600T の AC 電源タイプから置き換える際は DC 電源へ変更してください。詳しい電氣的仕様はハードウェアマニュアルでご確認ください。

2.3 USB 転送ケーブルについて

SP5000 シリーズでは GP3000 シリーズと同じ USB 転送ケーブル (型式 : CA3-USBCB-01) が使用できます。その他にも SP5000 シリーズ側が USB (Type mini B) のケーブル (型式 : ZC9USCBMB1) や市販品ケーブルも使用できます。

◆SP5000 シリーズで使用できる USB 転送ケーブル

	型式	コネクタタイプ	表示器側のコネクタ
オプション品	CA3-USBCB-01		USB (Type A)
	ZC9USCBMB1		USB (Type mini B)
市販品	-		

2.4 インターフェイスについて

2.4.1 シリアルインターフェイスについて

SP5000 シリーズでは、ボックスモジュール側に COM ポートがあります。

GP-3600T の COM2 ポートと SP-5B10 (パワーボックス) /SP-5B00(スタンダードボックス)の COM2 ポートはピン配列やプラグ/ソケットの形状が異なります。そのため、GP-3600T の COM2 ポートにつないでいた従来の PLC の接続ケーブルはそのままご使用いただくことができません。詳細は「[第 4 章 接続機器との通信](#)」を参照してください。それ以外のケーブルはそのまま使用できます。

また、GP-3600T で COM1、COM2 とともに RS-422/485 の機器と接続する設定を行っていた場合、SP-5B00(スタンダードボックス)に置き換えると、COM1 では RS-422/485 の接続ができなくなりますのでご注意ください。

2.4.2 補助入出力 (AUX) インターフェイスについて

SP-5B10 (パワーボックス) には補助出力 (AUX) I/F がありますが、アラーム出力またはブザー出力 1 点のみとなっています。(GP-Pro EX でアラーム出力またはブザー出力を切り替えます。)

GP-3600T で使用していた RUN 出力、外部リセット入力は使用できなくなりますのでご注意ください。

2.4.3 音声出力インターフェイスについて

音声出力が必要な場合は SP-5B10(パワーボックス)を選定いただき、AUX I/F を活用ください。

スピーカー出力を使用する場合、出力値が 70mW から 300mW に上がっています。アンプなどをご使用のお客様はご注意ください。

2.4.4 DIO インターフェイス、FLEXNETWORK インターフェイス、CANopen インターフェイスを
ご使用の場合

GP3000 シリーズ (C クラス)の DIO モデル、FLEXNETWORK モデル、CANopen モデルをご使用の
場合、SP-5B10(パワーボックス)を選定してください。

その際、SP5000 シリーズ側に新たに、以下のモジュールが必要です。

GP3000 シリーズ (C クラス)		SP5000 シリーズに追加する 拡張ユニット
DIO モデル	AGP3600-T1-AF-D81C AGP3600-T1-D24-D81C AGP3600-T1-AF-D81K AGP3600-T1-D24-D81K	FLEXNETWORK ユニット (型式: PFXZCHEUFN1) 詳細は FAQ:FA330215 を参照してく ださい
FLEXNETWORK モデル	AGP3600-T1-AF-FN1M AGP3600-T1-D24-FN1M	
CANopen モデル	AGP3600-T1-AF-CA1M AGP3600-T1-D24-CA1M	CANopen マスターユニット (型 式: PFXZCHEUCAM1) 詳細は FAQ:FA326702 を参照してく ださい

尚、SP-5B00(スタンダードボックス)は、拡張ユニットを使った通信に対応していません。

2.4.5 CF カードインターフェイスについて

SP5000 シリーズは CF カードスロットを搭載していませんが、代わりに SD カードスロットと USB インターフェイスを搭載しています。 CF カードに保存していた GP-3600T のデータや、CF カードを利用して動作していた機能を引き続き使用するには、SD カードか USB メモリーで代用してください。

SP-5B10 (パワーボックス) にはシステム用の SD カードとバックアップ用の SD カードの 2 つの SD カードインターフェイスがありますが、GP3501T の CF カードと置き換えに SD カードを使用する場合は、バックアップ用 SD カードインターフェイスを使用してください。

SP-5B10 (パワーボックス) で SD カードを使用する場合、次の仕様をご確認ください。

	ファイル形式	最大容量
SD	FAT16	2GB
SDHC	FAT32	32GB

なお、GP-Pro EX で出力先フォルダの設定を CF カードに設定していた場合、表示器タイプを変更すると、自動的に SD カードを使用する設定に変更されます。

出力先フォルダの設定を変更するには、「[5.1 使用する外部メディアの設定変更について](#)」を参照してください。

2.5 周辺機器、オプション品について

2.5.1 バーコード/2次元コードリーダの接続について

SP5000 シリーズでは GP3000 シリーズ同様、USB インターフェイス (Type A)、シリアルインターフェイスにバーコード/2次元コードリーダを接続することができます。GP3000 シリーズから置き換える場合は、お客様にてバーコード/2次元コードリーダの動作確認を行った上、ご使用ください。

2.5.2 プリンタの接続について

SP5000 シリーズは GP3000 シリーズ同様、USB インターフェイス (Type A) にプリンタを接続することができます。GP3000 シリーズから置き換える場合は、お客様にてプリンタの動作確認を行った上、ご使用ください。

2.5.3 拡張ユニットについて

GP3000 シリーズで VM ユニット/RGB ユニットを使用していた場合は GP4621T おきかえ BOOK を参照ください。

GP3000 シリーズで PROFIBUS ユニットを使用していた場合、SP-5B10(パワーボックス)を選定してください。

その際、GP3000 シリーズで使用していた PROFIBUS ユニット(型式 : CA5-PFSALL/EX01)は SP-5B10(パワーボックス)用の ProfibusDP スレーブユニット(型式 : PFXZCDEUPF1)をご使用ください。

詳細は下記にてご確認ください。

参照 :

[FA315627] GP3000 シリーズで、PROFIBUS ユニット(型式:CA5-PFSALL/EX-01)を使用しています。新しい機種に置き換えできますか？

(https://www.proface.com/ja/support/faq?page=content&country=PROFACE&lang=ja&locale=ja_JP&id=FA315627&prd=&redirect=true)

SP5000 シリーズ オプション一覧

(http://jpn.proface.co.jp/product/smart_portal/sp5000/option/index.html)

なお、その他の拡張ユニット(CC-Link ユニットなどの各種通信ユニット、VM ユニットなどの各種画像ユニット)は SP5000 シリーズでは対応していません。

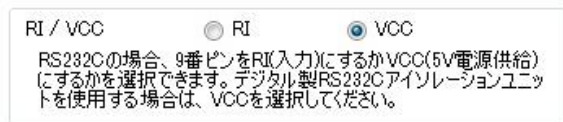
2.5.4 アイソレーションユニットについて

GP3000 シリーズで使用していた RS-485 アイソレーションユニット (CA3-ISO485-01) は、SP-5B10 (パワーボックス) /SP-5B00(スタンダードボックス)では使用できませんのでご注意ください。

なお、RS-232C アイソレーションユニット (CA3-ISO232-01) は SP-5B10 (パワーボックス) /SP-5B00(スタンダードボックス)でも使用することができます。(RS-232C/422 はユニット上のデバッグスイッチで切り替えます)

RS-232C アイソレーションユニット (CA3-ISO232-01)について

- RS-232C 通信の場合、COM ポートの 9 番ピンは VCC に設定する必要があります。GP-Pro EX「プロジェクト」→「システム設定」→「接続機器設定」より「VCC」を選択してください。



- RS-422/485 の 2 線式通信やシリアルマルチリンクはサポートしていません。

2.6 時計のバックアップについて

SP-5B10 (パワーボックス) /SP-5B00(スタンダードボックス)は時計のバックアップ用の電源としてスーパーキャパシタ (電気二重層コンデンサ) を使用しているため、電池が不要となりました。

ただし、以下のような注意点があります。

- スーパーキャパシタの電圧が低下した状態で本製品の電源を切ると、時計データは失われます。スーパーキャパシタの充電には、本体への 5 分間以上の電源供給が必要です。
- バックアップ可能期間は、以下のとおりです。
初期状態：約 100 日間
5 年後：約 30 日間 (周囲温度 25 °C [77 °F] で使用した場合)

さらに、オプションの時計データバックアップ用の電池 (型式：PFXZCBBT1) を接続することで、10 年以上のバックアップ期間を確保することができます。

2.7 対応機能について

SP5000 シリーズは以下の機能に対応していません。

- 画像ユニット (VM/DVI/RGB 入力) を使用する機能
- RPA
- ラダーモニタ

2.8 消費電力について

GP3000 シリーズと SP5000 シリーズの消費電力は異なります。

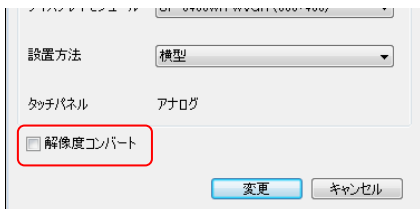
GP-3600T	SP-5600TA+ SP-5B10	SP-5600TA+ SP-5B00
50W 以下	36W 以下	28W 以下

2.9 表示解像度について

SP-5600TA(アドバンストディスプレイ)は XGA(1,024*768)の解像度にのみ対応しています。

もし低解像度(SVGA 800×600)のまま使用したい場合は SP-5600TP(プレミアムディスプレイ)を選定してください。

なお、表示器変更 (下図参照) で型式を変更する際に[解像度コンバート]にチェックを入れると、ディスプレイの解像度を基準に、サイズと位置を自動的に調整できます。ただし、解像度の変更に伴い水平方向に幅が 1.25 倍大きくなりますので、ご注意ください。その場合は、サイズと位置を確認し、必要に応じて調整してください。



特に、フォントで標準フォントを使用している場合には解像度コンバート後はフォントが小さくなります。

その場合は、ストロークフォントもしくはイメージフォントを使用していただくことで上記改善できます。

2.10 Pro-Server EX について

Pro-Server EX Ver.1.33 以上をご使用ください。詳細は

http://www.proface.co.jp/otasuke/qa/server_ex/replace/ でご確認ください。

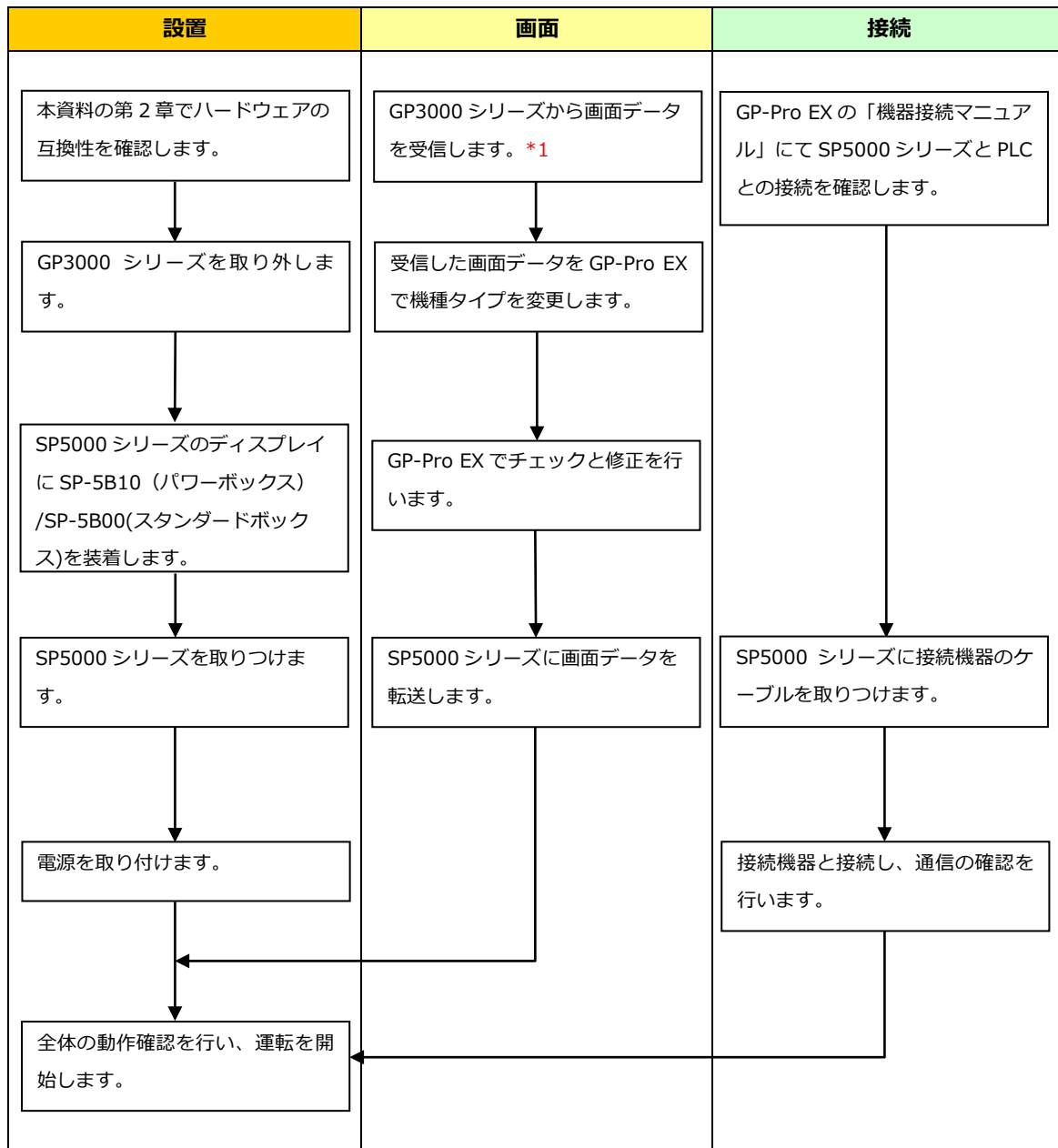
SP-5B00(スタンダードボックス)を使用の際は Pro-Server EX Ver.1.36 以上が必要です。

2.11 その他の注意点

- SP5000シリーズを屋外または直射日光のあたる環境で使用しないでください。
- SP5000シリーズを結露が生じている場合は、装置の電源を投入しないでください。
- SP5000シリーズを酸素が無い環境で連続して使用し続けた場合、輝度が低下する場合があります。
定期的に盤内を換気してください。

第3章 置き換え手順

3.1 作業の流れ



*1: 画面データが表示器本体にしか残っていない場合のみ本作業が必要です。

3.2 用意するもの

GP3000 シリーズからデータを受信するために必要なもの *1	GP-Pro EX の転送ツールがインストールされたパソコン *2
	USB 転送ケーブル (型式 : CA3-USBCB-01) ※CF カード、USB メモリー、イーサネット経由での画面送受信も可能です。
GP3000 シリーズの画面データを変換し、SP5000 シリーズへ転送するために必要なもの	SP-5B10 は GP-Pro EX Ver.4.02 以上、SP-5B00 は GP-Pro EX Ver.4.08.200 以上がインストールされたパソコン *3
	転送ケーブル (以下の 3 種類が使用できます) ・ USB 転送ケーブル (型式 : CA3-USBCB-01) ・ USB データ転送ケーブル (型式 : ZC9USCBMB1) ・ 市販の USB ケーブル (USB Type A/mini B) ※SD カード、USB メモリー、イーサネット経由での画面送受信も可能です。

*1: 画面データが表示器本体のみに残っている場合に必要です。

*2: GP3000 シリーズの作画時に使用したソフトウェアと同じ、またはそれ以上のバージョンをご使用ください。バージョンが不明な場合は最新バージョンのご利用を推奨します。最新のバージョンは、「おたすけ Pro!」 (<http://www.proface.co.jp/otasuke/>) の「ダウンロードしたい」から、転送ツールをダウンロードすることができます。

(http://www.proface.co.jp/otasuke/download/freesoft/gpproex_transfer.htm)

*3: SP5000 シリーズの PROFIBUS DP スレーブ/MPI ユニット (型式:PFXZCDEUPF1)は GP-Pro EX V4.07.000 以降にて対応、FLEXNETWORK ユニット (型式: PFXZCHEUFN1)、CANopen マスターユニット (型式: PFXZCHEUCAM1) は GP-Pro EX V4.07.200 以降にて対応しています。

3.3 GP3000 シリーズから画面データを受信する

GP3000 シリーズは、以下の転送が可能です。

- ・ USB 転送ケーブル (型式 : CA3-USBCB-01)
- ・ CF カード/USB メモリー
- ・ イーサネット経由

ここでは例として USB 転送ケーブル (型式 : CA3-USBCB-01) で受信する方法をご紹介します。

なお、画面データのバックアップがある場合、本手順は不要です。



PC



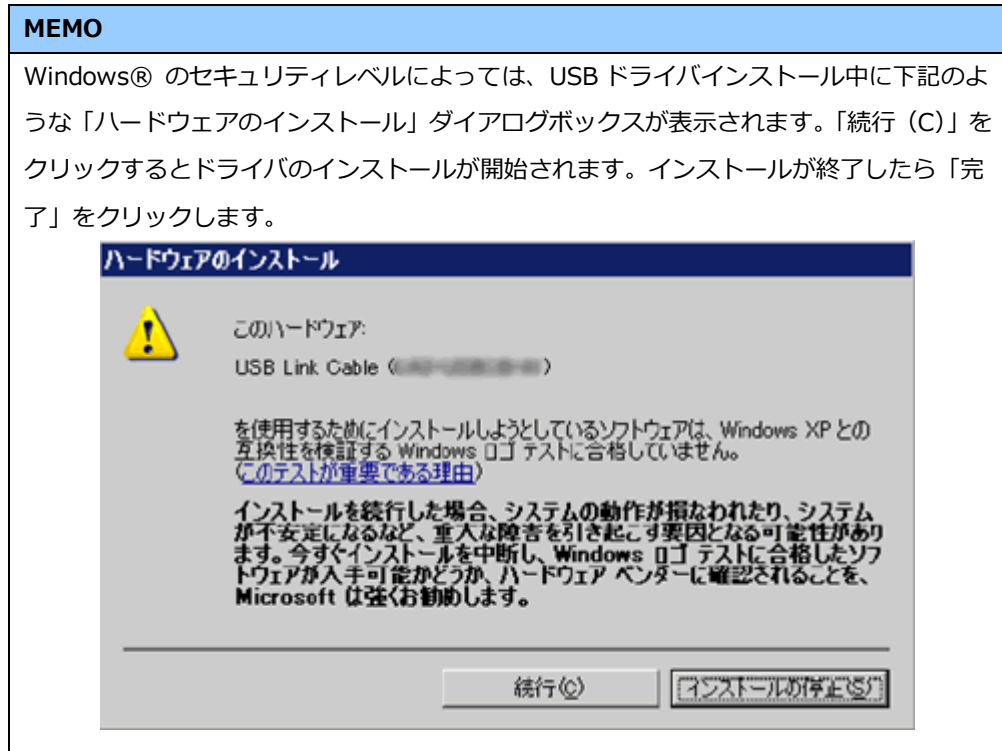
USB転送ケーブル
(CA3-USBCB-01)



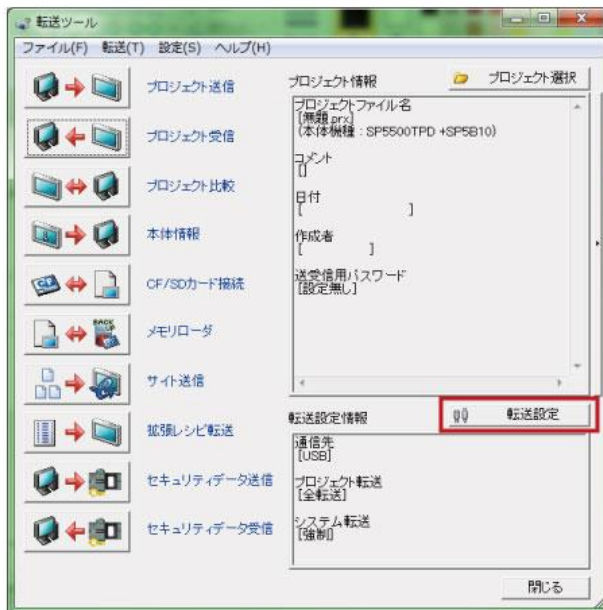
表示器

- 1) GP3000 シリーズに USB 転送ケーブルを接続します。

USB データ転送ケーブルのドライバがインストールされていない場合はダイアログボックスが表示されますので、指示にしたがってインストールしてください。



- 2) GP-Pro EX の転送ツールを起動します。



- 3) 「USB」でない場合は、「転送設定」をクリックすると次のような「転送設定」ダイアログボックスが表示されますので、「通信ポートの設定」で「USB」を選択して「OK」をクリックします。

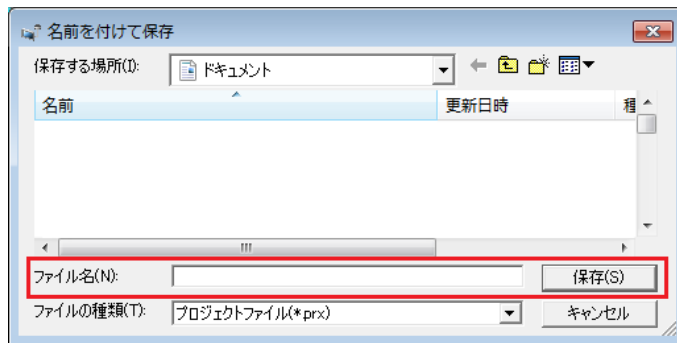


- 4) GP-Pro EX の転送ツールを起動し、「プロジェクト受信」ボタンをクリックします。



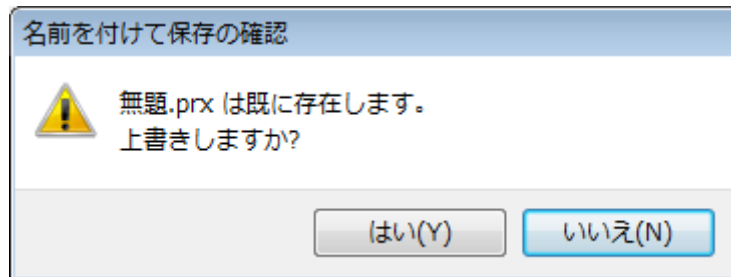
5) 「プロジェクト受信」をクリックします。

次のダイアログボックスが表示されますので、受信するデータの保存場所とプロジェクトファイル名を入力し、「保存 (S)」をクリックすると、転送が開始されます。

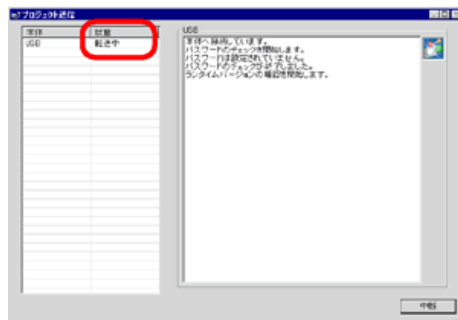


MEMO

すでに変換先のファイルが存在する場合は、ファイルを上書きするかどうかを確認するウィンドウが表示されます。



6) 転送中は次のダイアログボックスが表示され、通信状態が確認できます。(表示器側は転送中モードに切り替わり、接続機器 (PLC など) との通信が切断された状態になります。)



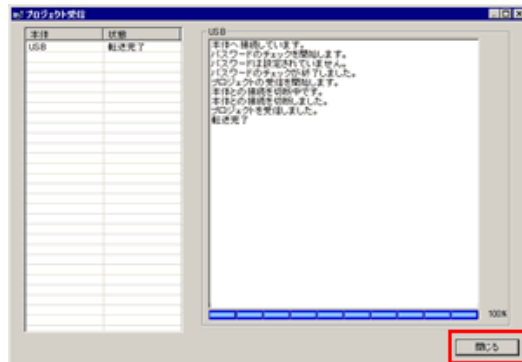
MEMO

- ・ レシピ機能 (CSV データ) など CF カードデータを使用しているプロジェクトファイルを受信する場合は、受信中に次のようなダイアログボックスが表示されますので、CF カード内のデータを保存する場所を指定してください。「OK」をクリックすると、「プロジェクト受信」ダイアログボックスに戻り、転送を完了します。



- ・ 置き換え機種種である SP5000 シリーズは CF カードスロットを搭載していません。表示器タイプを SP5000 シリーズに変更すると、CF カードの代わりに SD カードを使用する設定が自動で行われます。出力先フォルダの設定確認や変更については、[「5.1 使用する外部メディアの設定変更について」](#)をご覧ください。

- 7) 転送が完了すると、ダイアログボックスの状態表示が「転送中」から「転送完了」に変わります。「閉じる」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。



- 8) 転送ツールの「閉じる」をクリックします。

3.4 表示器タイプを変更する

受信した GP3000 シリーズのプロジェクトファイル (*.prx) を GP-Pro EX で開き、SP5000 シリーズへ機種設定を変更します。(→[2.9 参照](#))

- 1) 受信したプロジェクトファイル (*.prx) を GP-Pro EX で開きます。
- 2) GP-Pro EX の「システム設定」から「機種設定」を開き、表示器タイプを置き換え先の機種に変更してください。
- 3) 「プロジェクト(F)」→「名前を付けて保存(A)」をクリックし、変更したプロジェクトデータを保存します。

3.5 SP5000 シリーズへ転送する

機種設定の変更を行ったプロジェクトファイルを SP5000 シリーズへ転送します。

SP5000 シリーズは、以下の転送が可能です。

- ・ USB 転送ケーブル (型式 : CA3-USBCB-01)
- ・ USB データ転送ケーブル (型式 : ZC9USCBMB1)
- ・ 市販の USB ケーブル (USB Type A/mini B)
- ・ SD カード/USB メモリー
- ・ イーサネット経由

ここでは例として USB 転送ケーブル (型式 : CA3-USBCB-01) で転送する方法をご紹介します。



PC



USB転送ケーブル
(CA3-USBCB-01)

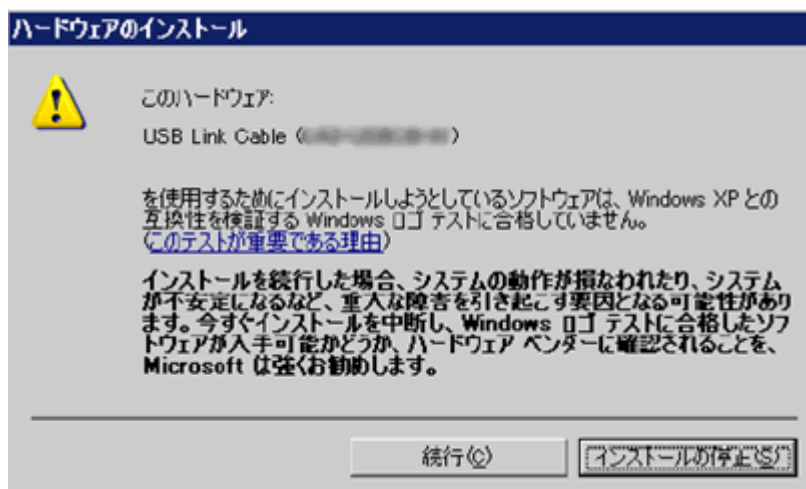


表示器

- 1) SP5000 シリーズに USB 転送ケーブルを接続します。USB 転送ケーブルのドライバがインストールされていない場合はダイアログボックスが表示されますので、指示にしたがってインストールしてください。

MEMO

- Windows® のセキュリティレベルによっては、USB ドライバインストール中に下記のような「ハードウェアのインストール」ダイアログボックスが表示されます。「続行」をクリックするとドライバのインストールが開始されます。インストールが終了したら「完了」をクリックします。



- 2) SP5000 シリーズの電源を ON すると「初期転送モード」画面が表示されます。
一度プロジェクト転送を行うと、以降この画面は表示されません。



- 3) GP-Pro EX の状態バーから「画面転送」アイコンをクリックし、転送ツールを起動します。

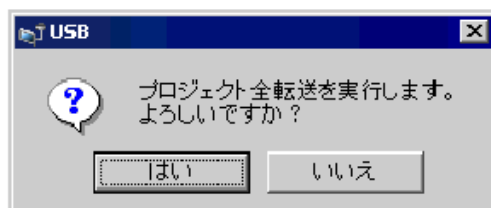


違うプロジェクトファイルを送りたい場合は、「プロジェクト選択」ボタンをクリックしてプロジェクトファイルを選択できます。

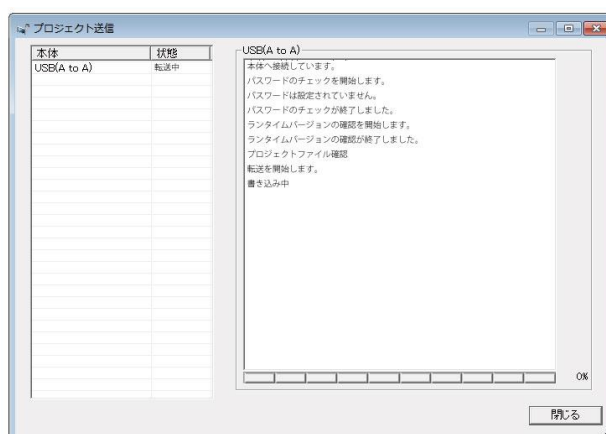
- 4) 転送ツールウィンドウ右下の「転送設定情報」で、「通信先」が「USB」になっていることを確認します。「USB」でない場合は「転送設定」をクリックし、「転送設定」ダイアログボックスから「通信ポートの設定」で「USB」を選択し、「OK」をクリックします。



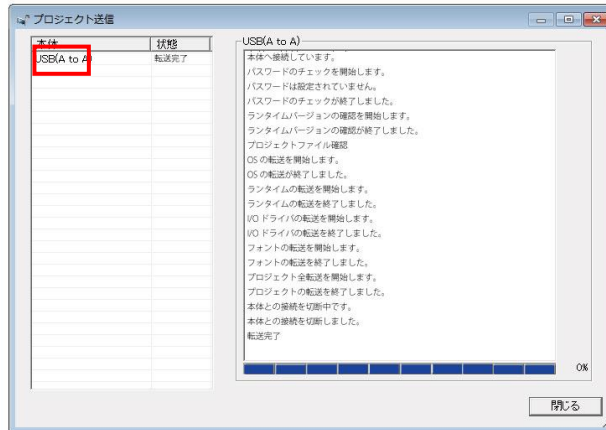
- 5) 「プロジェクト送信」をクリックすると転送が開始されます。次のようなダイアログボックスが表示されるので、「はい」をクリックします。同じプロジェクトファイルを再度送信する場合は表示されません。



- 6) 転送中は次のダイアログボックスが表示され、通信状態が確認できます。(表示器側は転送中モードに切り替わり、接続機器 (PLC など) との通信が切断された状態になります。)



- 7) 転送が完了すると、ダイアログボックスの状態表示が「転送中」から「転送完了」に変わります。「閉じる」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。



表示器はリセットされ、転送したプロジェクトの画面が表示されます。

- 8) 転送ツールの「閉じる」をクリックします。
- 9) 画面右上の「×」マーク、もしくは[プロジェクト]→[アプリケーションの終了]をクリックしてGP-Pro EXを終了します。

3.6 ソフトウェアの相違点

GP3000 シリーズと SP5000 シリーズでは、一部対応している機能に違いがあります。

対応部品、機能の詳細については、GP-Pro EX リファレンスマニュアル「機種別サポート機能一覧」

(http://www.proface.co.jp/otasuke/files/manual/soft/gpproex/new/refer/mergedProjects/welcome/welcome_ov_supportedfeatures.htm) でご確認ください。

第4章 接続機器との通信

4.1 COMポートの形状と通信方式

	GP-3600T	SP-5B10 (パワーボックス)	SP-5B00 (スタンダードボックス)
COM1	D-Sub9 ピン プラグ RS-232C/422/485		D-Sub9 ピン プラグ RS-232C
COM2	D-Sub9 ピン <u>ソケット</u> RS-422/485	D-Sub9 ピン <u>プラグ</u> RS- <u>232C</u> /422/485	D-Sub9 ピン プラグ RS-422/485

SP-5B00(スタンダードボックス)のCOM1はRS-422/485の接続ができなくなります。

GP3000 シリーズで COM1、COM2 共に RS422/485 接続をしていた場合は SP-5B10(パワーボックス)を選定してください。

4.2 COM2ポートの信号の違い

GP-3600TのCOM2ポートとSP5000シリーズ(パワーボックス/スタンダードボックス)のCOM2ポートのRS-422/485通信時の信号、ピン配列が異なります。

ピン コネクション	ピン 番号	GP-3600T			SP-5B10 (パワーボックス) / SP-5B00 (スタンダードボックス)		
		信号名	方向	内容	信号名	方向	内容
	1	TRMRX	-	ターミネーション (受信側 100Ω)	RDA	入力	受信データ A(+)
	2	RDA	入力	受信データ A(+)	RDB	入力	受信データ B(-)
	3	SDA	出力	送信データ A(+)	SDA	出力	送信データ A(+)
	4	RS(RTS)	出力	送信要求	ERA	出力	データ端末 レディ A(+)
	5	SG	-	信号グランド	SG	-	信号グランド
	6	VCC	-	+5V±5%出力 0.25A	CSB	入力	送信可 B(-)
	7	RDB	入力	受信データ B(-)	SDB	出力	送信データ B(-)
	8	SDB	出力	送信データ B(-)	CSA	入力	送信可 A(+)
	9	TRMTX	-	ターミネーション (送信側 100Ω)	ERB	出力	データ端末 レディ B(-)
	Shell	FG	-	フレーム グランド (SG 共通)	FG	-	フレーム グランド (SG 共通)

※: GP-3600Tの6番ピンのVCC出力は過電流保護されていません。

誤動作、故障の原因となりますので電流定格を守ってご使用ください。

4.3 置き換え時のケーブル結線について

◆GP-3600T の COM1 のケーブル

SP-5B10 (パワーボックス) の場合は、COM1 または COM2 にそのまま使用できます。

SP-5B00(スタンダードボックス)の場合は、RS-232C 機器との接続は COM1 にそのまま使用できます。

RS-422/485 の機器は、COM2 での接続になります。(ケーブル結線はそのまま流用できます。)

SP-5B00(スタンダードボックス)との接続前に、必ず「接続機器設定」でポートの設定を「COM2」に変更してください。

また、念のため GP-Pro EX の機器接続マニュアル

(<http://www.proface.co.jp/otasuke/files/manual/soft/gpproex/new/device/>) で通信設定も再度ご確認ください。

◆GP-3600T の COM2 のケーブル

以下の場合に限り、GP 側に「COM ポート変換アダプター (CA3-ADPCOM-01)」を追加することで SP-5B10 (パワーボックス) の COM1 または COM2、SP-5B00(スタンダードボックス)の COM2 で使用できます。

なお、GP-3600T のケーブルにオンラインアダプター (CA4-ADPONL-01) がついている場合は、はずしてください。

- RS-422 ケーブル (CA3-CBL422-01)
- 2 ポートアダプターケーブル (CA3-MDCB11) + 2 ポートアダプターII (GP070-MD11)
- マルチリンクケーブル (CA3-CBLMLT-01 (5m))
- コネクター端子台変換アダプター (CA3-ADPTRM-01) + RS-422 ケーブル (ユーザー製作)
- MPI ケーブル (GP3000-MPI21-PFE)
- シーメンス COM ポート変換アダプター (CA3-ADPSEI-01) + CA3-MPI-PGN-PFE または CA3-MPI-PG1-PFE

その他の接続構成については COM ポート変換アダプター (CA3-ADPCOM-01) の動作保証をしておりませんので、新しい結線のご用意をおすすめします。

結線図については、GP-Pro EX 機器接続マニュアルでご確認ください。

(<http://www.proface.co.jp/otasuke/files/manual/soft/gpproex/new/device/>)

4.4 マルチリンク接続について

シリアルマルチリンク対応の通信ドライバについては、「[シリアルマルチリンク対応ドライバ一覧](#)」

(http://www.proface.co.jp/otasuke/files/manual/soft/gpproex/new/device/com_mlnk.htm) でご確認ください。

第5章 付録

5.1 使用する外部メディアの設定変更について

GP3000 シリーズで CF カードを使用していた場合、プロジェクトファイルの表示器タイプを SP5000 シリーズに変更すると、自動的に SD カードを使用する設定に変更されます。

<手順>

SD カードの代わりに USB メモリーを使用したい場合 → [手順①へ](#)

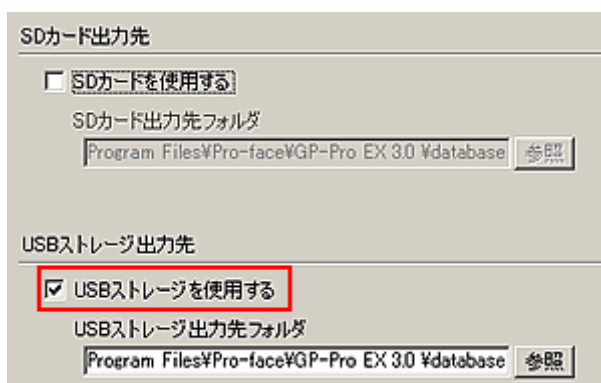
SD カードの出力先設定を確認・変更したい場合 → [手順②へ](#)

【手順①】

以下の手順に従って、SD カードの代わりに USB メモリーを使用する設定に変更してください。

<設定変更手順>

- 1) 「プロジェクト(F)」 → 「プロパティ(I)」 → 「出力先フォルダ(C)」 をクリックします。
- 2) 「SD カードを使用する」のチェックをはずして、「USB ストレージを使用する」にチェックを入れます。



- 3) 「参照」 ボタンをクリックして、出力先のフォルダを指定します。



- 4) 「OK」 をクリックして設定を確定します。
- 5) 「プロジェクト(F)」 → 「上書き保存(S)」 をクリックし、変更を保存します。

- 6) CFカードを使用していた各機能について確認し、データの参照もしくは保存先の設定を「USBストレージ」に変更してください。

MEMO

GP-Pro EXの各機能の設定のご確認には、GP-Pro EX リファレンスマニュアルをご覧ください。

【手順②】

以下の手順に従って出力先フォルダの設定を確認、変更してください。

<設定変更手順>

- 1) 「プロジェクト(F)」→「プロパティ(I)」→「出力先フォルダ(C)」をクリックします。
- 2) 現在の設定が表示されます。

The screenshot shows a dialog box titled "SDカード出力先" (SD Card Output Destination). It has two sections: "SDカード出力先" and "USBストレージ出力先".

In the "SDカード出力先" section, the checkbox "SDカードを使用する" (Use SD card) is checked. Below it, the "SDカード出力先フォルダ" (SD card output destination folder) is set to "C:\Users\%xxxxxx%\Documents\Pro-face\GP-Pro EX 4.1" with a "参照" (Reference) button to its right.

In the "USBストレージ出力先" section, the checkbox "USBストレージを使用する" (Use USB storage) is unchecked. Below it, the "USBストレージ出力先フォルダ" (USB storage output destination folder) is set to "C:\Users\%xxxxxxxxxx%\Documents\Pro-face\GP-Pro" with a "参照" (Reference) button to its right.

- 3) 変更後は「OK」をクリックして設定を確定します。
- 4) 「プロジェクト(F)」→「上書き保存(S)」をクリックし、変更を保存します。